

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス	開設学科		管理栄養学科		
科目名称	管理栄養士演習Ⅰ					授業形態	演習		
科目コード	306100	単位数	1単位	配当学年	3年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	木村 志緒								
授業概要	<p>(1)管理栄養士演習Ⅰの15回分と管理栄養士演習Ⅱの3回分を木村が担当します。 (2)アクティブラーニングのひとつである“反転授業”(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形式)とします。 つまり、授業時間内は演習問題を解き、自己採点による振り返りを行いますので、前もって知識習得を進めるために授業外において各自あるいはグループでの予習を行っておいください。</p>								
関連する科目	履修前に、公衆衛生学、健康管理概論を受講しておくことが望ましい。 履修後に、管理栄養士演習Ⅲを受講することが望ましい。								
授業の進め方 と方法	<p>授業の前半：問題20問を解き、ユニバ等で回答番号を提出する。 (本授業では問題を解くスピードを求めるのではなく、思い込みや早合点による誤答を防止することに重点をおくので、回答時間を個別に設定することとする。)</p> <p>授業の後半：教員から解答解説を受け取り、自己採点や振り返りを行ったあと、次回分の予習や定期試験に向けた学習を行う</p>								
授業計画 【第1回】	<p>本授業の概要・進め方 管理栄養士演習Ⅱの3回分の授業テーマは下記の通りとする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会分野(2)B社 ・社会分野(3)C社 ・社会分野(4)D社 <p>国家試験問題に準じた内容の演習問題に取り組む。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>社会分野(1)：A社 国家試験問題に準じた内容の演習問題に取り組む。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>ホルモン(1)：作用等 国試に頻出されるホルモン(下垂体前葉と下垂体後葉ホルモンの区別など)についての演習問題に取り組む。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>ホルモン(2)：疾病等 国試に頻出される内分泌性疾患(パセドウ病と橋本病の区別など)についての演習問題に取り組む。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>免疫(1)：基本的事項 国試に頻出される免疫(免疫グロブリン5種類、アレルギー4種類、食物アレルギーなど)についての演習問題に取り組む。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>免疫(2)：疾病等 国試に頻出される自己免疫疾患(強皮症、関節リウマチ、全身性エリテマトーデスなど)についての演習問題に取り組む。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>呼吸器 国試に頻出される呼吸器の機能と構造、COPDなどについての演習問題に取り組む。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>循環器 国試に頻出される循環器疾患の疫学、構造と機能、心疾患(右心不全と左心不全の区別)などについての演習問題に取り組む。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>神経系 国試に頻出される認知症(脳血管性、アルツハイマー型、レビー小体型の区別など)についての演習問題に取り組む。</p>								
授業計画 【第10回】	<p>血液系 国試に頻出される貧血(鉄欠乏性、再生不良性、悪性、巨赤芽球性、腎性、溶血性の区別)などについての演習問題に取り組む。</p>								
授業計画 【第11回】	<p>腎臓(1) 国試に頻出される腎臓の構造と機能、機能に関連するホルモンの作用などについての演習問題に取り組む。</p>								

授業計画 【第12回】	腎臓(2) 国試に頻出される腎臓疾患における食事療法（CKD、ネフローゼ症候群、糖尿病腎症などの区別）についての演習問題に取り組む。
授業計画 【第13回】	臨床検査 ビリルビン、チアノーゼ、プロトロンビン、アナフィラキシーショックなどの用語が頻出されている演習問題に取り組む。
授業計画 【第14回】	感染症 国試に頻出されるウイルス、細菌、真菌、寄生虫などについての演習問題に取り組む。
授業計画 【第15回】	まとめ 社会分野と2～14回で取り組んだテーマの問題に取り組む。
授業の到達目標	①ユニバにおける課題提出を通してスケジュール管理等の自己管理能力を身に付ける【自己管理能力】 ②国家試験に必要な基礎的な知識及び類似問題を解く際に活用できる力を身に付ける【知識・理解を応用し活用する能力】 ③社会人となった時、管理栄養士として他者と連携し、協調・協働して行動できる力を身に付ける【協調・協働能力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	覚えておくべきことを整理し、インプットする(1時間程度)
授業時間外の学修 【復習】	予習が不十分だった事柄について復習する(30分程度)
課題に対する フィードバック	回答時間に個人差が生じることを想定して解答は紙媒体で配布する。 質問等には授業時間外も含め対応する。
評価方法・基準	以下の項目及び割合に基づいて相対的に評価する (1) 演習問題：約7割 (2) まとめテストの点：約3割
テキスト	・必要に応じて資料を配布する
参考書	
備考	